

- 1 派遣期日 令和4年10月29日（土）
- 2 研修先 学校名（会場名） 国立大学法人 お茶の水女子大学附属中学校
所在地 東京都文京区大塚2-1-1
[http:// www.fz.ocha.ac.jp/ft/](http://www.fz.ocha.ac.jp/ft/)

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取り組み

研究テーマ：試行錯誤と創意工夫のある「つくる学び」をつくる
～各教科における見方・考え方を生かした創造的思考力を伸ばす授業のデザイン～

① 創造的思考力とは

創造的思考力とは、様々な創造的活動を通して発揮される、独創的なアイデアを生み出すコンピテンシーのことである。

※コンピテンシー：活動の中で立ち現れてくる実行力、課題解決力などの有能さの総称

② 創造的活動の類型（PISA2021「Creative Thinking」の枠組みを参考）

創作表現 個人の内面やイメージを他者に伝える活動 例：詩の創作

知識の創造 新たな解釈を生み出したり、既存の知識を再構成したりする活動

例：法則の発見

問題解決 社会や自然の問題を見出し分析してアイデアを生み出して解決する活動

例：環境問題の解決

③ 創造的思考（思考）のプロセス

思いや問題に気づく	・アイデアの条件，アイデアを生み出す方法，道具を確認する。 ・観察，分析する。感じる，驚く，受け止める，疑問を感じる。 ・自分事としてとらえて思いをふくらませる。 ・他者の視点から創造（共感）する。 ・関連する分野・領域の知識・技能，経験を想起し，アイデアを生み出す際に活用する。
アイデアを思い描く 【拡散的思考】	・常識にとらわれ過ぎずに，奇抜で斬新なイメージやアイデアを広げ，楽しむ。 ・他の分野，領域の知識・技能，経験や多様な情報を統合し，新たな意味を生み出す。
アイデアを実行する 【収束的思考】	・より意味や価値のあるアイデアを選択する。 ・より新規性や有用性のあるアイデアを吟味する。 ・選択・吟味したアイデアを具体的に構想，試作・試行する。
アイデアを振り返る 【メタ認知】	・アイデアが意図したとおりに機能しているか確かめる。 ・他の（人の）アイデアの長所と短所を特定し，良さを認め合ったり助言し合ったりする。

(2) 視察校における授業の実際

【学年・教科】 第3学年技術・家庭科 家庭分野

【題 材 名】 願いを叶え、学びをつなぐ ―毛糸の染色―

学習指導要領 A(2)「幼児の生活と家族」・B(4)「衣服の洗濯と手入れ」

【本時の目標】 幼児の願いを叶えるために、材料や染色の条件を試行錯誤しながら毛糸を染色する。

【本時の流れ】 ①染色の予備実験の結果を共有し、幼児の希望に沿った毛糸を仕上げるための手法を決定する。→幼児の希望に沿った毛糸を染色する。

②染色の手法と結果を共有する。→授業の振り返りを行う。

幼稚園児からの要望をもとに、毛糸を染色する授業である。幼稚園との連携はもちろんのこと、美術科（色彩）や理科（イオン）、数学科（比例式や濃度計算）、社会科（毛糸の原産地）の学習内容とも関連が深く、多角的・多面的な学びにつながっている。園児の「あやとりができる毛糸がほしい」「マフラーをつくりたい」「森の水色の毛糸がほしい」といった願いと、事前に学習している幼児の心と体の発達・遊びの特徴に応じて毛糸の種類や長さ、色、手法、条件などを創造的に考えられるように工夫されていた。

(3) 分科会 ～授業の振り返り・講師指導から抜粋～

○生徒たちはもちろん、園児にとっても学びのある実践であった。

○園児に対して手紙を出すのが、書き方や伝え方も工夫が見られて良い。

○園児からの解説不能な言葉（「森の水色」など）を読み解こうとする姿が見られた。

○染色に失敗した班（繊維の種類によっては染まらない）はなぜ失敗したのか、どうすれば次は成功するかを今までの学習内容から論理的に考えることができていた。

○なぜ電子レンジを用いた染色なのか、なぜ食用色素を使っているのかにも触れられると良い。

○毛糸を洗うときに強い力でこすり洗いやもみ洗いをしてしまうと、繊維の特徴によりフェルト化してしまうため、配慮が必要である。

4 感想

様々な情報が行き交い、考え方が多様化・変化する現代社会において、既存の価値観や知識にとらわれることなく新しい何かを創り出すことは重要である。これを踏まえると、学校教育における創造的思考力の育成はこれから生きていく子供たちにとっても重要であると考えられる。今回の授業には、そんな思考力を深めるための仕掛けがたくさんあった。特に印象に残っていることは、様々な人との関わりの多さである。この授業は関係者の存在が多く、その関係性も深い。幼稚園の園児、幼稚園の先生、他クラスの生徒に、他教科の教員、染色の専門家であるゲストティーチャーなど様々な人との関わりがあるからこそその発見や学習があった。このようなネットワークを作ること一朝一夕にできることではないため、目的意識を明確にし、長期的な目線をもつことが大切であると感じた。

今回様々な手立てや授業づくりにおける新しい見方・考え方を学ぶことができた。学んだことを自分の授業に活かせるように、教材研究に更に励んでいきたい。